

第17課 様子・推測(2) トリックアート

様子・推測(2) トリックアート



あるはずがないものが見えたり、あるはずのものが見えなかったりすることがある。決して目がおかしくなったのではない。いわゆる目の錯覚である。

例えば、下の図を見ると、白っぽい三角形が浮き上がって見える。しかし、線は引かれていない。線がないのに、白い三角形があるように見える。下の絵は婦人が斜め後ろを向いている絵であることはわかるが、実は見方を変えると老婆が現れる。なかなか見えて来ないという人は、婦人の耳の部分が老婆の目、そして首飾りの部分が口だと意識すれば現れるはずだ。婦人の姿とは違って、怖そうな老婆の顔が現れてどきっとする。面白いことに、老婆が現れたときには、婦人は見えない。反対に婦人が見えているときには老婆は見えない。実に不思議なものである。決して同時に見えることはない。

決して

錯覚

白っぽい

浮き上がる

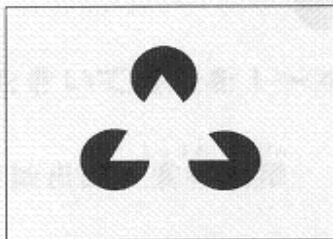
婦人 斜め

老婆

部分

首飾り

姿 どきっと



目の錯覚を利用して不思議な世界を体験したいのなら、トリックアートの美術館に行ってみるといい。展示されている作品はどれも目の錯覚を利用して平面の絵の一部が飛び出したように見える。絵の額縁も含めてすべて壁に直接特殊なべ

トリックアート

美術館 展示

作品 どれも

平面 額縁

含める 特殊

第17課 様子・推測(2) トリックアート

ンキを塗ってかかされている。室内を薄暗くして、光を当てることによって、立体的に見えるのである。動物たちは絵の中から今にも飛び出してくるそうに見えるし(写真1)、子供は絵から落ちそうになっている。絵を見ている少年に話しかけても振り向くはずがない(写真2)。実はそれも絵の一部なのだ。しかし、後ろ姿を見ていると、今にも振り向きそうに感じるから不思議である。あなたもここに来ればそれを実感するにちがいない。

(＊カラーページ参照)

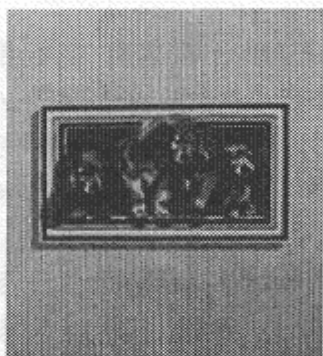


写真1



写真2

ペンキ 塗る
室内 薄暗い
立体的
少年
振り向く
後ろ姿

＊ 写真1・2提供協力 株式会社エス・デー(SD)

■ 本文設問

- (1) 「あるはずがないものが見える」というのはどんな場合ですか。
 - (2) 「あるはずのものが見えない」というのはどんな場合ですか。
 - (3) <写真2>にかかされている少年は、どうして今にも振り向きそうに感じるのですか。
- ◇ トリックアートの美術館では作品に直接触ることもできるし、フラッシュを使って写真をとることもできます。しかし、できあがった写真は実際に見たものとずいぶん違います。なぜでしょうか。

第17課 様子・推測(2) トリックアート

■ 本文新出語 (★は文型で学習)

名詞	婦人	斜め	老婆	部分	首飾り	姿	トリックアート	美術
かん	さくひん	へいめん	がくぶち	ぶぶん	しつない	しょうねん	うし	すがた
館	作品	平面	額縁	ペンキ	室内	少年	後ろ姿	
な形容詞	特殊	立体的						
い形容詞	薄暗い							
名詞／動詞Ⅲ	錯覚(する)	意識(する)	体験(する)	展示(する)				
動詞	浮き上がるⅠ	含めるⅡ	塗るⅠ	振り向くⅠ				
副詞	決して	どきっと(する)						
その他	(白)っぽい(→ 関連語)	どれも						

【基本動詞の用法】

- ・(光を)当てる

【自動詞と他動詞】

「向くⅠ」「向かうⅠ」／「向けるⅡ」

- ・上(下、横)を向く／顔を上に向ける。
- ・南向きの部屋。アンテナの向きを変える。
- ・イギリスに向かった／向けて出発した。

※他動詞「含むⅠ」と「含めるⅡ」

- ・これはビタミンCをたくさん含んでいる。これにはビタミンCがたくさん含まれている。
- ・この料金には消費税が含まれていません。(=入っていません。)
- ・送料を含めて〇〇円。(=～を入れて〇〇円。)
- ・私を含めて〇〇人が行く。

■ 単語の意味の確認 (単語を入れなさい。必要なら形を変えなさい。)

【 体験する 実感する* 含める 現れる* ひく* 決して 】 * 印は既習

- (1) 重要だと思ったところに線を()おく。
- (2) いろいろ()、勉強になった。
- (3) 実際にやってみて、その大変さを()。
- (4) 私を()、全部で10人で行くことになった。
- (5) 加藤さんはパーティーの終わりごろに()。
- (6) 私は()うそは言っていない。信じてください。

含む ビタミンC

第17課 様子・推測(2) トリックアート

■ 文型・表現

「様子・推測」の文型・表現(2)

(1)「～そうだ」のバリエーション

1) ～そうになっている (※～する直前の様子)

～そうにしている (※様子を見せている)

1. あの本棚の上に置いてある箱が落ちそうになっていますよ。危ないから下に降ろしておきましょう。
2. あんなに高く箱を積んだら危ない。今にも崩れそうになっている。
3. ジョンさん、さっきから退屈そう／つまらなそうにしていますね。どうしたんでしょうか。
4. 自信ありそうにしているけど、本当は緊張していると思う。

2) ～そうに見える (※「～そうだ」と大体同じだが、見た印象だということを強調)

1. A 「そのセーターけっこうしたんじゃないですか」
B 「けっこう高そうに見えるでしょう。でも、実は1,980円なんですよ」
2. あの絵の女性は笑っているようだけれど、どこか寂しそうに見える。

3) ～そんな気がする (→ ★L7)

～そんな感じがする／感じだ

1. 今度のテストではいい点が取れそうな気がする。
2. これから急いで行けば間に合いそうな気がする。
3. あの人の言っていることには何か裏がありそうな感じだ。

4) ～そうに＜動詞＞

1. プールで気持ちよさそうに泳いでいる人はだれですか。
2. 毎日つらそうに仕事しているけれど、大丈夫？
3. 駅の喫煙コーナーでは数人がおいしそうにタバコを吸っていた。

5) ～そうになった (※実際は～しなかったが、危なかった)

1. 酔っぱらって歩いていたら、駅のホームから落ちそうになった。
2. 後ろからバイクで走ってきた人にバッグを取られそうになった。
注)同じ意味で「もう少しで～ところだった」
3. 急に子供が飛び出して来たので、もう少しでひくところだった。

第17課 様子・推測(2) トリックアート

(2) (きっと)～に違いない (※個人的な判断でそうだと確信する場合)

1. あの人はうそをついているに違いない。
2. あしたの試験にはきっとここが出るに違いない。
3. A「ええと、加藤さんはどの人かしら。大勢いて分からないわね」
B「あ、あの眼鏡の人に違いない。グレーのスーツを着ていると言っていたから」

注1)確信はないが、その可能性はあると言う時には「(もしかしたら)～かもしれない」

4. あしたの試験にはもしかしたらここが出るかもしれない。

注2)だれが考えても、論理的にそうなると思った時には「～はずだ」を使って客観的に説明。

※同じ文でもニュアンスが異なる

5. 山田さんは今家にいるにちがいない。

(個人の主張：自分が知っている知識を使って判断する)

家にいるはずだ。

(客観的な判断：例えば「風邪で学校を休んだんだから」)

6. 勉強すれば上手になるにちがいない。

(本人の強い思い込み)

きっと上手になるはずだ。

(結果としてそうならなくても、論理的にはそうだ)

注3)「～はず」は『＜過去のこと＞←＜現在のこと＞』の判断には使えない。

その時は「～にちがいない」を使う。「はず」はいつも論理的に『＜X＞→＜Y＞』。

7. 山田さんは顔が赤い。きっとお酒を飲んだにちがいない。(×飲んだはずだ)
8. 山田さんはきのう上司と居酒屋に行った。だからきっとお酒を飲んだはずだ。

(3) ～はずがない (※論理的に／常識ではそういうことは考えられない) → 「～(ない)はずだ」 *

1. あのまじめなケンさんがそんなことをするはずがない。
2. こんなに青空なのに、雨が降るはずがありませんよ。
3. A「高橋先生もいらっしゃるかしら」
B「今、入院しているんだから、来られるはずがないよ」

注)(2)の注のように「はず」は論理的な判断だから、結果(=現実)と違うこともある。

4. この地図によるともうすぐ着くはずなんだけど、変だな。学校なんてどこにもないね。
5. 自分の計画では、今ごろは日本語がべらべらになっているはずなんだけど・・・
6. あの時山田さんはいなかった。だから彼がそのことを知っているはずがない。どうして知っているのだろう。きっとだれかが話したのだ。

第17課 様子・推測(2) トリックアート

その他の文型・表現

(1) ～である／～ではない (※書き言葉のスタイル) → ★L.14(※文のつなぎ方)

1. 電球を発明したのはエジソンである。
2. 日本の国技は柔道ではない。相撲^{すもう}である。
3. 梅雨のころに咲く「あじさい」という花は本当にきれいである。

(2) ～ことに(は)・・・ (※文を修飾する副詞：・・・というのは非常に～ことだ)

1) い形容詞／な形容詞

1. 面白いことに、同じ重さのものでも色によって重く感じることもあるらしい。
2. 珍しいことに、あのけちで有名な課長がみんなに昼ご飯をおごってくれた。
3. 不思議なことに、きのうまで公園にいた鳩が一羽もいなくなった。そして、猫も一匹もいなくなった。
4. 残念なことに、1点足りなかったために、合格しなかった。

2) 動詞「～たことに」

1. 困ったことに、会社に連絡を入れたいのだが、近くに公衆電話が全然ない。
2. 驚いたことに、犯人は隣に住んでいる人だった。

(3) ～ものだ(ね) (※感嘆^{かんたん}：感心したり、驚いたり、あきれたりする気持ちを表す)
～もんだ(ね) → ★L.9,11,13「～ものだ」

1) い形容詞 (※L.9 <当然>の用法が基本になっている)

1. 月日がたつのは早いものですね。日本に来てもう1年になります。
2. ライオンの赤ちゃんて、けっこうかわいいもんだね。
3. こうやって昔の友達が集まって話をするのは楽しいもんですね。

2) 「たいしたものだ」「困ったものだ」(※慣用的表現)

1. 一人でヨットで大西洋を渡るなんて、たいしたもんだ。
2. 最近、野菜が値上がりしている。困ったものだ。

3) その他 (※程度の形容詞、副詞と一緒に使う)

1. 自分の子供をベランダに一晩中出しておくななんて、ひどい親がいるもんだ。
2. この辺も数年の間にずいぶん変わったものだ。
3. 簡単にだまされたもんだね。そんな話を信じる方が悪いよ。

でんきゅう 国技 [花の名前] あじさい 課長 おごる I 公衆電話
ヨット 大西洋 たいしたもの 値上がり(する)(⇔値下がり) だます I

第17課 様子・推測(2) トリックアート

4) 「よく(まあ)・・・ものだ」

1. 目上の人に対して、よくあんな失礼なことが言えたものだ。
2. まだ11歳なのに、よく(まあ)あんなに落ち着いて演奏ができるもんだ。
3. よく(まあ)食べるものだ。もう5人前くらい食べているよ。

■ 文型・表現練習

(1) ～そうに・・・／～そうな・・・

1. 「今まで何回もたばこをやめようと思ったのですが、そのたびに失敗しました。でも、この方法を使えば、たばこが_____気がします」
2. あんなに体が大きいから_____に見えるけど、実際は1日に1回しか食べないらしい。
3. _____に見えるけど、実際は_____。
4. キムさんは「_____」とうれしそうに話した。
5. 風が強くて、かぶっていたぼうしが_____になった。

(2) ～に違いない

1. 犯人は_____に違いないと刑事は言った。
2. 山田さんはきょうも学校の授業をさぼったらしい。きっと_____。

(3) ～はずがない

1. そんなやり方では_____。絶対に失敗するはずだ。
2. 1つ80キロもあるんだから、一人で_____。
3. A「_____」
B「そんなことあるはずがないよ。うそでしょう」

第17課 様子・推測(2) トリックアート

(4) ～ことに(は)

1. 驚いたことに、_____。
2. うれしいことに、_____。

(5) ～ものだ

1. _____なんて、たいしたものだ。
2. _____なんて、変わった人があるもんですね。
3. アイススケートの演技はすごい。氷の上でよくまあ _____
_____ものだ。

■ 作文練習

◇ 学習した文型・表現を使って文章を書いてみましょう。

<トピックの例>

- ・『不思議なこと』：日本のことについて不思議だと思ったことについて書きましょう。
注) L.1～4の作文も復習しながら、自分の国と比べて書いてみましょう。



第18課

第17課 様子・推測(2) トリックアート

■ 関連語の学習 (下線は新出語)

◇ 「～っぽい」の単語

1. 色について、全体的にそういう色に見える
・ 白っぽい、黒っぽい、赤っぽい、茶色っぽい
2. ○○が多く含まれている(※マイナスイメージ)
・ 水っぽい(酒)、油っぽい(料理)
・ 湿っぽい(ふとん)
3. 形容詞や名詞について、そのように見える。(→★L16「～らしい」)
・ 安っぽい(服)、子供っぽい(サラリーマン) →(※マイナスイメージがある)
・ 大人っぽい(中学生)
4. 動詞について、すぐそうになってしまう(※マイナスイメージ)
・ 忘れっぽい、怒りっぽい、飽きっぽい

■ 聴解ミニテスト



◇ 録音をきいて答えを1～4の中から選んでください。

□ 聴解新出語：ヘリコプター

答	1	2	3	4
---	---	---	---	---

